World View アジア発

シリーズ「アジアほっつき歩る記」第１回

カシュガル特区の現実

須賀　　努
コラムニスト・アジアンウオッチャー

近年中国を中心に台頭するアジアが注目されている。しかしその報道の量は多いものの、どこかステレオタイプな感じがして、本当に起こっていることを反映しているのか、偏った報道だけがなされているのではないか、と懸念してしまうことがある。筆者は昨年まで26年勤めていた金融機関を辞め、昨年９か国、141日間、アジアをほっつき歩いて見た。そこには生きたアジアが横たわっており、それが何層にもなっている感を呈し、実に様々な動きをしていた。単にビジネスだけを追求すると見えてこない実情が見えてきた。今回は中国の西の端、新疆ウイグル自治区、カシュガルをご紹介してみたい。

香港からカシュガルまで

香港からカシュガルまでの直行便はない、それどころか、中心都市ウルムチ市までの便すらない。そこで香港からシンセンの空港までバスで行き、シンセンからウルムチ経由で行くことに。

ウルムチまで約５時間、更に１時間40分飛行してようやく着く。まさに西の果てである。中国国内は原則北京の標準時間を使っているが、２月時点のカシュガルは朝９時でも暗く、夜は７時過ぎまで明るい。新疆の人々は北京時間と２時間時差のある新疆時間を便宜的に使っており、来訪者は時々、集合時間を間違えたりするので、注意が必要だ。

カシュガル概要

カシュガルはタクラマカン砂漠の西の端に位置するオアシス都市で、中国最西端の街。天山山脈の麓にあり標高は1200メートル。降水量は極めて少ないが、我々が訪れた時は、何故か大雪が降り、帰国時には空港閉鎖に見舞われてしまった。これも世界的な気候変動の現象であろうか。気温は零下10度前後。盆地にあるウルムチは最低気温が零下17度まで下がっていたのに比べればまだよかった。この街は歴史的には交通の要所であり、多くの民族が興亡を繰り広げている。漢代の班超、唐代の玄奘などが通り、近年では大谷探検隊などシルクロードを旅する旅人の通過点であった。

宋代にはイスラム化したウイグル人の中心的な都市となった。近年漢族が大量に入って普通の街になりつつあるウルムチなどとは異なり、現在も非常にウイグル色の強い土地である。何となくのんびりとした時間が流れるこの街にはどこか癒される。新疆名物のラグメン（スパゲッティの原型のような麺）や骨付き羊肉をぐつぐつ煮込んだスープ、ナンなど、ウイグル料理も絶品である。

経済特区構想

そんなカシュガルに2010年、経済特区構想が持ち上がる。これは前年のウルムチ暴動など、不安定な状態を和らげる目的で中央政府が「西のシンセン」を作るというスローガンを上げたようだ。今回筆者はシンセンから飛行機に乗り、カシュガルに着いた。何か因縁めいたものを感じる。30数年前特区になる前のシンセンは人口僅か３万人、のどかな田園風景が広がっていた。今では高層ビルが立ち並び、人口は1000万人を越えている。

【須賀努氏のプロフィール】
東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾２年、香港通算９年、北京同５年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

写真１　市場でウイグル料理を売る人々

カシュガル特区構想が伝わり始めると、シンセンの繁栄ぶりもあってか、中国各地から市内の不動産に買いが殺到、一時は何倍にも値が上がった場所もあったという。市内中心部には「温州」などの文字が付いたオフィスビルがいくつもあり、不動産投資で名を馳せた各地の投資家が買い漁った様子が見えた。

現在は市内中心部の新築マンションの売り出し価格が2,500－3,000元／㎡とかなり落ち着いた水準となっており、ウルムチなどから比べてもかなり安い水準である。特区構想が進まない現実と金融引き締めのダブルパンチにあった模様で、市内にはマンションの値引き広告があちこちで見られた。

一体この特区構想とは如何なるものなのか、我々は市内中心部にある豪華な展示場を訪れ、その内容を確認しようとした。場内には非常に立派な展示物が並び、都市構想は３Ｄを駆使して、素晴らしい未来都市を我々の眼前に表現して見せた。整備された広い道路、モノレールが走り、高級マンションが立ち並び、きらびやかな服装の男女が行き交うのだが……。

これが20年後のカシュガルだと言われ、思わず「素晴らしい」と言った我々にウイグル人たちは「これが少しでも実行できればね」と片目をつぶって見せた。あるウイグル人曰く、「何年か前にもこんな計画があったよ。そして今回もまた一から計画をやり直している」と。更にある人は「市の幹部が変わる度に計画が変わる。３－４年に一度は出る計画さ」と極めて冷ややかだ。

我々のような一旅行者からみれば経済特区など作らずに、このままのどかでつつましい、心豊かなカシュガルを残してもらいたいと思ってしまうのだが、現在利権を握っている人はそれでは困る。当然彼らも本気で構想を全て実現しようとはせず、短期に投資を集中させ早期回収し儲ける。今や中国の何処にでも吹き荒れる拝金主義がここまで持ち込まれている。民族問題など微妙な状況もクスぶる中、混沌としたカシュガルをそこに見た。

写真２　カシュガル市都市計画展示館